



問 若者定住促進の取り組みは

松中キミエ

答 地元企業とタイアップして調査研究をしていく

問 本町の奨学金制度のなかで、卒業後、町に帰って来る優遇措置の考えは。

町長 今のところ、具体的に持ちはわせていない。総合的に雇用環境、これを高め、奨学生も帰ってきやすい環境にする事を目標にする。

問 若者定住促進のために、地元企業とタイアップ

問 若者定住促進のために、地元企業とタイアップ

し、奨学生を、採用出来る協力依頼をするなど、官民一体になる事業の考えは。

観光商工課長 若者の安定的な雇用確保は定住促進にとって大変重要である。現在、町と町内に立地する企業との情報交換の場は無いが、今後これらタイアップに向け、立ち上げの調査研究をしていく。

問 町営住宅に町外からの移住者に対する助成制度は。

総務課長 エレベーターが無いあたごハイツは、4階5階を独身者が住める家賃設定を検討していく。



若者が住みやすい住宅へ

グリーンハイツ田中

健康増進が図れる健康遊具



問 介護予防の対策は

答 健康増進に向けて調査研究

問 高齢化が進む中、介護予防には健康増進が大切である。多くの方が散歩に利用している余笹川ふれあい公園に利用説明付き健康遊具を設置する考えは。

生涯学習課長 公園ではグラウンドゴルフ会場、ウォーキング、ジョギングと

高齢者に限らず利用している。健康遊具に付いては、特に安全面、維持管理を含め設置について調査研究していく。

問 脚力アップの運動を推進することは介護予防になるが、運動教室はどの様に推進しているのか。

保健福祉課長 ファットネスクラブ、体力アップ、心身力アップ、てんとう虫教室など地域で行っている。まずは、地域包括支援センターの体力アップ教室を継続し、民間や地域での新たな取り組みも健康増進に向け調査研究する。